



虹いろ



Line Up

表紙	新年・初詣風景	のはら楽団・由井美涼
題字	虹いろ	山口竹夫様
2-3	八ヶ岳名水会 新年ご挨拶.....	八ヶ岳名水会理事長 坂本ちづ子
4	新年ご挨拶	監事・手塚邦彦
5	青森おいらせ研修	企画事業部 植松玉美
6-7	マレーシア研修	らいむ・下條英里 のはら楽団・伊藤美咲
8-9	春の陽1泊伊豆旅行.....	春の陽・江口紗枝実
	その他	

23

平成30年(2018)
1月発行 23号

八ヶ岳名水会 新年ご挨拶

八ヶ岳名水会理事長 坂本ちづ子

「地域という大きな家族」 の中で暮らす

☆ 迎春 ☆

最低気温が連日マイナスの八ヶ岳の麓。

枯草の中に一遇、緑が。凛として葉の切っ先を、天に向けています。

永遠の息吹をいっばい溜めた、「万年青」

後援会、保護者の皆様、関係者の皆様には御健勝にて、新しい年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

又、昨年は日野春舎構想を始めとする各種事業に御理解と御協力を賜りました事御礼申し上げます。

私ども各事業所を御利用の皆様も、お元気でそれぞれの仕事に、活動に励んでおられます。

さて、地域、社会、この国が急速に変化していくあれこれが、連日のように伝えられており

ます。そのような中であっても、維持可能な地域社会づくりの一員である事、地域で暮らす事、変化に合わせて、その下支えをしていく事等は本年も引き続き、行って参ります。

年の初めに、「つづき」と「あらたに」の三つをお話いたします。

☆いつから、工事は始まるだい?!!

合理的配慮の原点であるといつも思っている、隣保組織。その隣保組の新年会の折、重度、高齢の方々のグループホーム「太陽」の建設がいつから始まり、いつ住めるのか心配して声をかけて下さいました。

区全体の説明会も終わってから、七ヶ月。近隣の皆さんからの細かい要望等をおききしての設計変更、書類の再提出、開発、農地転用の遅れ等で、ズレが生じての今日ですが、梅の小枝でうぐいすが鳴き出す頃には、重機が入って、造成工事の音が響き渡ります。

☆見えない!! わからない?!

三五〇、四二二四八、これは、何の数字だとお思いでしょうか。

「三五〇」これは、当法人の事業を利用されている皆さんのおよその人数。

「四二二」は、事業数。

「二四八」は、職員数です。

変わりゆく情勢と転換期にあつて、これだけ多くの数字になると、もはや今までの方法では統制機能が不全となりつつあります。

専門家を依頼して、分析していただきますと、

〜地域ニーズにあわせて、必要とされる事業を着実に拡大されてこれられ、かなり数多くの事業を運営。急成長する法人に多く見受けられるのが組織体制の課題。急成長は早く、タイムリーに意思決定を重ねてきたから、実現できるのだが速度を重視する故に、経営チームと各現場(事業所)が、「ワントップ&オールフラット」の組織形態となり、経営チームの管理範囲を越えてしまう。〜

*経営コンサルタント インサイト

関原 深 氏

八ヶ岳名水会もまさにここにあると、指摘をいただき、六ヶ月余り、検討して参りました。

改革のその一端は、

「支援やその区域、事業内容から、エリア、ユニット制を導入」エリア内の事業連携強化を目指す事は、利用者さんへの丁寧な支援につながる。

北杜市から韮崎市までが主な事業範囲ですの
で、ここを三エリアに分け、更に支援内容から、

五ユニットプラス一。ユニット制度に沿って、

○会議形態と決定

○職務分掌

○権限

○規定の整備

○ユニットを保管する機能 等々

年度内では、予算を含めた事業計画の策定等、身近かで「見える」「わかる」意識的に取り組む方法として着手。これからがいよいよ正念場です。

☆ねえ、見て、見て!!!

そば処「豆の花」前の交差点に立つと、日野春農場のハウスが一望に。今の時期、ハウスの煙突からはいく筋も煙が一斉に立ち、なんとも言えない風情です。

こちらから収穫される小麦とトマトで、「つちのね」（NPO法人取得予定）は、パスタとトマトソースの新製品を開拓。

「キッチンのほら」の二階に上っていくと、お弁当に、更にオードブルも加わったとパソコンの画面で説明される。下の階では、菜の花のアート活動「みえないことづけてん」（三月二日～三月十日）に向けて、嬉々として、取り組んでいらっしやる。

■ 藤崎・南拠点、「Lu^ルa」に転居した十名の皆さんは、ある人は一人で、ある人は仲間と一緒にワイワイ、ガヤガヤ楽しみながら夕食作りに着手。幸先の良いスタートを切ったと便りがありました。

「山梨アールブリュット」合同企画展、二年目は「親密なるまなざし」をテーマに、県内外、国内外の作家さんの作品を県立美術館を会場にして開催されることになりました。（一月二十三日～一月二十八日）

四十二事業のほんの一端を紹介しました。「農と食と美」は命の源。自然の中にちりばめられ、だれとでも共有できます。皆で、一緒に探し、掘り起こし、視野を広げる日々、あるものは続け、あるものは新たに。人間でなければ出来ない事を大切にしていきます。

外に目を向けますと、この四月には「医療」「介護」「福祉」の三分野の報酬改定が同時に実施されます。

既に、「障害総合支援法等改正（地域包括ケア強化法）」で、現在の障害福祉サービス事業所等と、介護保険事業所に、新たに障害児者、高齢者が共に利用できる「共生型サービス事業所」の位置づけが加わりました。限られた財源や人材を有効活用する事が、日常茶飯事となつてくる中で、いずれの動向もしつかり見て足したり、

引いたりしていかねばなりません。現場も社会情勢も、多事、多岐に渡りますが、役員一同、法人改革と意識改革を機の一つひとつ越えて参りますので、本年も何卒宜しくお願致します。



一歩！そして一歩！

八ヶ岳名水会 監事 手塚邦彦

明けましておめでとうございます。

白根ICから高速に乗り、長坂を目指す時、葦崎を過ぎたあたり左側に八ヶ岳の看板があります。そこを過ぎると、目の前に雲一つない青空をバックに八ヶ岳の姿がドーンと広がります。

雪を頂いた赤岳を見上げると、車の中にも身が引き締まる思いです。

二十五年前、その麓の小荒間から始まった名水会が、一歩そして一歩と取り組みを広げ、成長してきたことに拍手をおくります。

情報紙は「ほしぞら」から法人全体を網羅した「虹いろ」を五、六年前から出しはじめました。

それは、今、何が必要なのか考えた結果、後援会の皆さんだけでなく、職員の皆さん、関係する皆さんに、名水会の歩んでいく方向を共有し、ともに良くしていこうという考えがあったからでしょう。

昨年は、中井監事といっしょに、いくつかの

現場に行かせてもらいました。

「春の陽」でスチール缶とアルミ缶を黙々と選別している利用者さんがいました。仁田坂さんのわかりやすい案内を受け、「一人ひとりの利用者さんの持つ持っている能力に気づき、できる仕事は何かをスタッフが考えて用意している。」という話を聞きました。

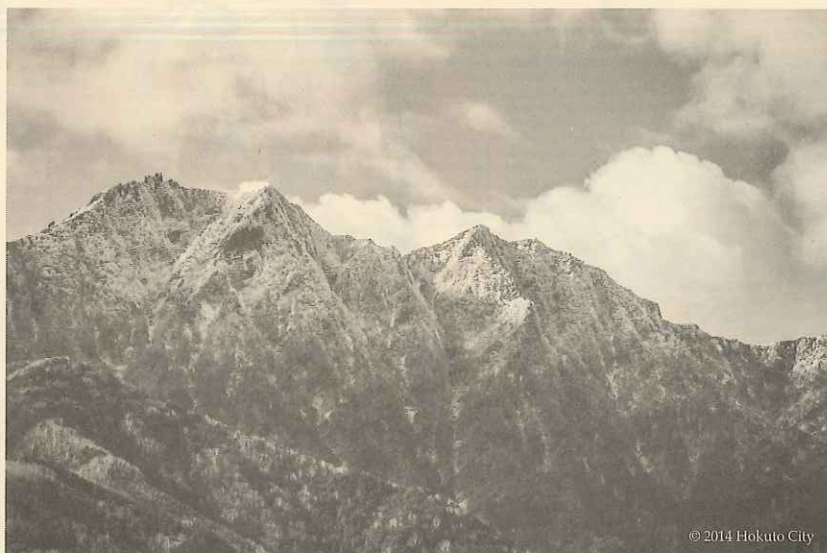
言葉にまとめてしまえば、この表現だけでなく、利用者さんが楽しみ夢中になって取り組む仕事を発見するには、スタッフが寄り添い、ほんの少しの表情や動きの中から察知しなければできないことだと思いました。

生活のありのままを直接に見て話を聞くと、さまざまな課題が現場にあることがわかりました。

「星の里」を生み出した坂本清満さんの願いは、「満天の星」だと思っています。

星は見えない昼も、見える夜も輝き続けています。名前にこめた意味を受け止めたいと思います。

※一年いや、もつとでしょうか。手塚、中井のおふた方監事さんが、各事業所を巡り、現場を見、職員・利用者さんの声を聞いて下さる「行脚」が始まり、一報をいただきました。



© 2014 Hokuto City

福祉は地域の

熱源になれる！

企画事業部 植松玉美

去る12月19日、20日に青森県「アグリ」の里おいらせ」へ研修に行ってきました。到着後はすぐに施設見学となりました。まずは足湯。温泉を利用してあるので最初に作られたとのこと。続いてビニールハウスへ。中に入ると驚きの光景です。気温はそれほどではないものの暖かくハイビスカスが咲き、バナナやパッションフルーツ等南国の果物が実っていました。



地下と地上の何本もの温泉パイプがハウスの気温を上げ、6層に掛けたビニール素材が温度を保っていました。ハウスではいちご狩りの真っ盛り、隣の8連棟のイチゴハウスは木材チップの暖房も

利用していません。しかし東北の地、外気は0度近く真っ赤に実るイチゴは鮮やかに輝いていました。その後地域の200件の方々が出荷されている産直所へ。デイの帰りに買い物による高齢者の為、地域の人々の



為に、スーパーのような品揃えはまさしく地域に密着した存在でした。ハウスや直売所、レストランなどでは、働く障害をお持ちの方々ともお会いしました。皆さん素敵な笑顔で挨拶して下さり、自分の



仕事に自信と誇りを持つていることが伝わってきました。こんなにも素敵な場所ですが、設立当初は周囲から理解が得られず大変苦労をなさったそうです。しかし出会った方々と



の関係を大切にすることを1番に継続した事で、現在年間40万人の集客があるとのこと。人間関係を大切に活動してきた証となつていて示しています。

山梨でも人口減少に歯止めをかけることは出

来ません。障害があっても社会に出て働くこと、働けることが求められています。どこにどのような仕掛けを作ることでも実現性の高いものが作れるのか、私達の考え方を福祉からではなく、社会のなかに必要なものを作り、気が付いたら福祉も仲間だったというように転換することが大事なことです。実感する研修でした。



マレーシア研修を 終えて

らいむ 下條 英理

昨年12月13日～12月15日5泊6日間の日程で「ムヒバ支援—ボルネオ島スタディーツアー」に参加させていただきました。

目的地であるデイセンター「ムヒバ」はマレーシアの首都クアラルンプールから国内線を乗り継ぎ、さらに車で2時間程かかる自然の多く残るバワンという地域にあります。



ムヒバへ向かうバスの中では、ムヒバを設立された中澤ご夫妻にこれまでの経緯をお伺いしました。ボルネオへ来るきっかけとなったのが、ご主人の健さんのお父様が戦死した地であったという全く想像もしていないものでし

た。その地を訪

れ、当時水道も

電気も通ってい

ない場所では、

福祉が整ってい

るはずもなく、

さらに地域の実

態調査によって

障がいのある方

たちの暮らしが

人間らしいとは

言い難い状態

だったことを実感されたそうです。交通の便が悪く支援学校には通えず、一般学校では受け入れられず、働く場所もないため家で過ごすしかない。目を離せない子は一日中狭く囲われた中で過ごす。虐待と思われるかもしれません、自由であることが熱帯雨林に覆われた地域では死に繋がるリスクが高いのです。

そんな環境下で設立されたムヒバは彼らにとって日中活動先であり、学校であり、リハビリセンターといったあらゆる役割を果たしています。年齢も障害も様々なメンバーと一緒に音



楽を奏で織物をしたりしながら、とても開放的な空間で伸び伸びと笑顔で活動されていました。限られた環境ではありますがいかに個々に必要な支援を行えるのか工夫も見られました。

ムヒバに通える事でこれまで難しかった福祉的支援を受けることができ、彼らの持つ可能性を伸ばすことができるのです。

しかしそんな重要な役割を果たしているムヒバもまだ経済面での問題は大きく、福祉に対する支援はまだ足りないのが現状とのことでした。

今回、国外の福祉の現状や施設を知ることによって改めて日本の福祉について考えるきっかけになりました。まずは身近な自分が関わっている支援について見詰め直していきたいと思います。

今回の研修で、ムヒバの現状や施設を知ることによって改めて日本の福祉について考えるきっかけになりました。まずは身近な自分が関わっている支援について見詰め直していきたいと思います。



デイセンター 「ムヒバ」を訪れて

のほら楽団 伊藤 美咲

ムヒバはマレーシアの首都クアラルンプールから飛行機で2時間のボルネオ島にあるシブという町から車で2時間行った先であり、周りには胡椒畑や自然が広がっていました。

「調和」を意味するデイセンタームヒバへ到着すると踊りや音楽で私たちを出迎えてくれ、



スタッフや利用者さんの暖かい笑顔がとても印象的でした。様々な個性を持つ人達がお互いに助け合いながらムヒバで楽し

く過ごしてい

るのを実際に

見て体験する

と、ムヒバで

の生活がいかに

彼らにとつ

て居場所であ

り生き甲斐に

なっているか

ということを

実感しました。



排泄時に服を汚してしまった仲間がいると、

着替えを手伝ってあげる人と、トイレを掃除す

る人、利用者さんのみで協力し声を掛け合いお

互いに助け合う場面がありました。スタッフが一

駆け寄ることはありません。その光景が普段の

ムヒバです。困っている人がいたら助けるとい

うことは当たり前のことですが、それを彼らは

自分たちだけで協力して声を掛け合いながら過

ごしています。

彼らの地域の学校には支援学級はなく、障が

いがある人は学校に通うことが出来ないの

です。その為ムヒバが設立する以前は自宅だけで

一日を過ごしてい

たと伺いました。彼ら

にとつてムヒバは初

めての仲間が出来た

場であり、唯一の社

会の場であるのです。

施設で生活する一

人ひとりが助け合い、

施設名の「ムヒバ」

も意味している調和

がとれたデイセンタームヒバは、国や民族を超

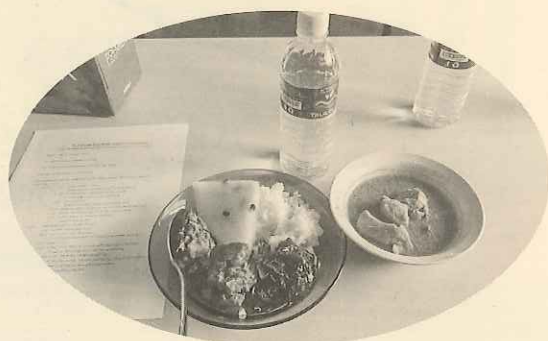
えた協力の下で彼らの居場所は守られていると

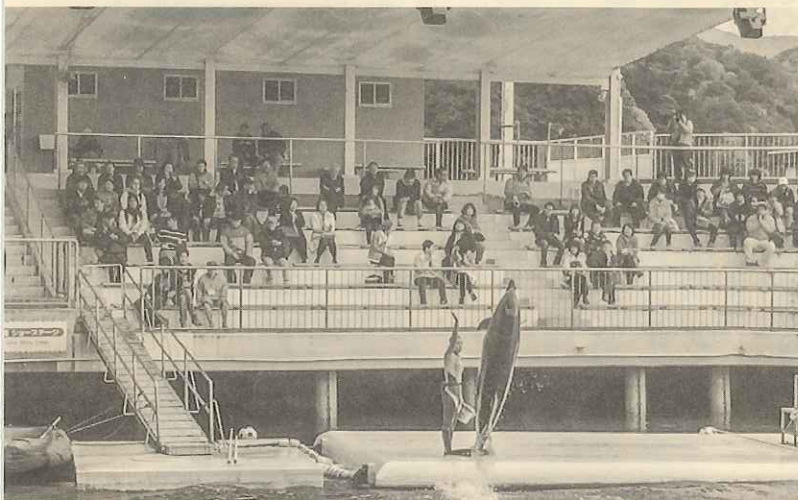
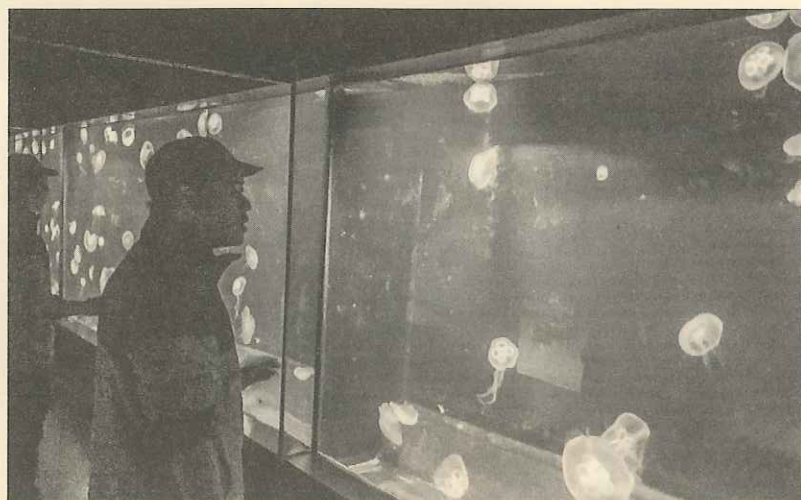
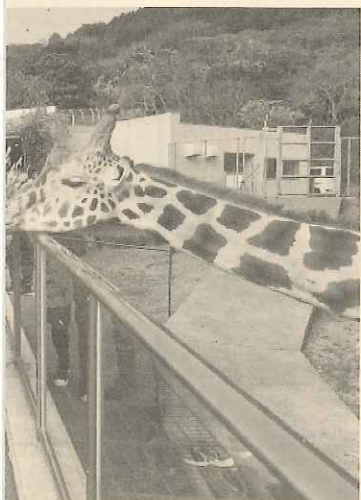
思いました。

彼らの笑顔や居場所を無くさない為にも継続

した支援が必要だと感じました。また、豊かさ

とは何かと考えさせられる研修でした。





月30日~12月1日

旅行 《伊東の旅》

大きなトラブルもなく、無事に旅行を終える事ができて、本当によかった。

初めて参加する方も何名かいたが、楽しめていたと思う。利用者さんの笑顔をたくさん見ることができた。動物にエサやりをしたり、貴重な体験ができたのではないかと思う。

利用者さんが楽しんでいる姿を見て、本当に安心した。

バスの中では、ビデオが見れた。海が見えて、とてもきれいだった。帰りの道の駅で、お土産が買えてよかった。

動物園（アニマルキングダム）で、キリンやシマウマなどの動物に餌やりができて楽しかった。お昼のハンバーグもおいしかった。ホワイトタイガーがすごくかっこよかった！でも、近くで見ると少し怖かった。



水族館のイルカショーが面白かった。サメやカニ、クラゲが見れてよかった。イルカにエサをあげることができた。イルカとボール遊びができて楽しかった。いろいろな魚を見ることができた。



平成29年11

春の陽全体

ホテルの部屋が、広くてきれいでよかった。宴会のご飯がとても豪華でおいしかった。カラオケでたくさん歌えて楽しかった。温泉が気持ちよくて、朝も入った。



ありがとうございました！

○ 題字を書いてくださった方

ユウシシステム株式会社 山口 竹夫様

○ 表紙の写真をくださった方

のはら楽団スタッフ 由井 美涼様

素敵な字と写真をありがとうございました！

不用品・不用家具等の寄付のお願い

ハケ岳名水会では各事業所やグループホーム、日野春學舎等に様々な物品を常時必要としています。

お手元で眠っている不用品、家具、家電製品、農業機械等お譲り願えればたいへんありがたいです。どうぞよろしくお願いたします。

問い合わせ連絡先

0551-32-0035

編集後記

新しい年が始まった。天候にも恵まれ穏やかな正月が迎えられた。この時期必ず想う言葉が「初心忘るべからず」小学生でも知っている言葉で、「物事に慣れてくると慢心してしまいがちであるが、始めた時の新鮮で謙虚な気持ち、志を忘れてはいけない」という意味が一般的だ。しかし実はかなり考えさせられる意味が含まれている。是非の初心を忘るべからず。成功、失敗を問わず初心者の時の体験を忘れては上達が妨げられる。時々の初心忘るべからず。初心から年の盛り、そして老後に至るまでその時々において初めて習う事柄はそれぞれに初体験であり、いわばその時期における初心である。老後の初心を忘るべからず。老後の風体に対応しい事を習うということにはこれまた初体験で、いわば老後初心である。老年になってさえ初心はあるということである。平成二十三年十月に創刊した「虹いろ」も五年が経過しました。これからも、いつまでも「初心忘るべからず」を胸に新たに歩んでいきたいと思っています。

錦

社会福祉法人 ハケ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355

FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>

広報委員会スタッフ

錦見祐治（陽だまり） 廣瀬政光 穂坂雄太（以上菜の花） 遠山 萌 浅川恵美
小松寛明（以上星の里） 高柳 優 江口沙枝実（春の陽） 由井美涼（のはら楽団）
魚多和輝（ぼーら） 立川瞳（相談支援） 井上加奈（らいむ） 法人事務局



おもと
万年青